

## ラテックスアレルギーに注意しましょう！

### ラテックスアレルギーとは？

ラテックスアレルギーとは、ラテックスグローブやラバーダムシート、風船などの天然ゴム製品に含まれるラテックスタンパク質が抗原となり、皮膚や粘膜等にラテックスタンパク質が接触した直後から数時間以内に、発赤や蕁麻疹などの症状を引き起こすアレルギーです。

ラテックスアレルギーには軽度な皮膚症状を呈するものから、血圧低下や呼吸困難を伴う「アナフィラキシーショック」を引き起こす重症なものまであるため注意が必要です。

天然ゴム製品と接触する機会が多かったり、慢性的な肌荒れなどで皮膚のバリア機能が低下した状態で天然ゴム製品に接触していると発症するため、ラテックスグローブを頻繁に使用する医療従事者、二分脊椎症患者など医療処置を繰り返す人、またアトピー素因のある人がラテックスアレルギーのハイリスクグループとされています。ラテックスアレルギーの発生頻度は、欧米では歯科医師 13.7%、手術室医師 7.5%、手術室看護師 5.6%、一般人 0.8%との報告があります。

栗やバナナ、アボカドなどのフルーツのタンパク質がラテックスタンパク質と分子構造が似ており交差性があるため、ラテックスアレルギー患者のうち 30%～50%にこれらのフルーツに反応して アレルギーを起こすことがあり、これを称してラテックス・フルーツ症候群と呼ばれています。石油を原材料とする「合成ゴム」はラテックスタンパク質が含まれないため、ラテックスアレルギーの原因にはなりません。



### 症状

最も多いものは皮膚症状で、その他に呼吸器、消化器、循環器症状などがみられることが特徴です。皮膚症状では、ラテックスが接触した部位に局限して症状が発現する軽度なものから、体幹や下肢など広範囲に及ぶ重度なものまであります。また、咳や呼吸苦などの呼吸器症状や急激な血圧低下や頻脈などの循環器症状、意識レベルの低下などアナフィラキシーショックを呈するものには緊急対応が必要になります。

#### ・皮膚症状(90%)

蕁麻疹  
浮腫(血管・口唇など)  
顔面紅潮  
掻痒感



#### ・呼吸器症状(40～60%)

呼吸困難  
持続する強い咳込み  
咽頭浮腫  
鼻炎など



#### ・消化器症状(25～30%)

吐気  
嘔吐  
腹痛・下痢



#### ・その他生命の危機となる症状

めまい・湿疹  
血圧低下  
頭痛・胸痛・痙攣など



## ラテックスアレルギーが疑われたら

ラテックス製品の接触部位に局限して蕁麻疹や掻痒感が見られた場合、治療を中止し**接触部位を十分に洗浄**します。経過観察後、症状が軽快しないようであれば皮膚科などの医療機関を受診する対応が求められます。呼吸困難や急激な血圧低下、頻脈、そして意識レベルの低下など緊急性が高く重篤な症状が見られたら、ラテックスアレルギーによるアナフィラキシーショックを疑い※**アドレナリン自己注射薬(エピペン®)**や119番通報を行い**高次医療機関に救急搬送**するなど、速やかに対応する必要があります。

※ アドレナリン自己注射薬とは、アナフィラキシーが発現した時に医師の治療を受けるまでの間、症状の進行を一時的に緩和し、ショックを防ぐための補助治療薬です。緊急時には、服の上からも注射できます。

## 歯科治療の対応

医療用具には添付文書または包装に天然ゴム成分が含まれていること、またアレルギー症状が生じる可能性についての注意喚起がされています。歯科診療で使用している製品の説明書や容器を確認することで、天然ゴム製品かどうか識別することが可能です。歯科治療を行う前の医療面接で、アレルギーの有無について確認することや、また、医療面接を行うことが困難である歯科検診などでは、あらかじめニトリルグローブを使用することが必要です。ラテックスアレルギーの予防策は、患者さんとラテックスアレルゲンとの接触を避けることであり、ラテックスフリーの環境を整備することが医療安全上のリスク管理として重要です。



## 当センターでの取組みについて

当センターでは、過去のラテックスアレルギー発生事例を省みて、様々な再発防止策を講じています。

### ・ スタッフ間での情報共有

カルテの注意事項用紙にアレルギー情報の記入を行い、さらにカルテ表紙に注意シールを貼りアレルギーの有無をわかりやすく対処しています。

### ・ 医療安全のための職員研修会の実施

3月19日(金)に国立成育医療研究センター病院アレルギーセンターセンター長 大矢幸弘先生を講師に「ラテックスアレルギー」というテーマで講演をしていただきました。



【ラテックス禁忌シール】

### ・ 診療器具・器材のラテックスフリー化

当センターではラテックスアレルギーのある患者さんが比較的多いことから、グローブやラバーダムシートなど診療で使用するラテックス製品は、原則ラテックスフリー製品を使用しています。

日本では、一般的にラテックスアレルギーについての認知度が低いのが現状です。ノンラテックス製品の普及で、ラテックスアレルギー患者は減少傾向にありますが、患者さんへ安全で安心な歯科診療を提供するためにも、ラテックスアレルギーについての正しい知識と対処法を身につけておく必要があります。

参考文献：重篤副作用疾患別対応マニュアル アナフィラキシー 厚生労働省 令和元年  
基礎疾患がなくても起こりうる全身の偶発症 デンタルハイジーン Vol38 2018  
スペシャルニュース 障害者歯科 第1版 日本障害者歯科学会 編集  
New Release 消費者庁 厚生労働省 経済産業省  
[https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_safety/release](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/release)

2021年4月1日閲覧